

## 2. 秦漢～魏晉南朝：西南夷の「発見」と南中社会の成立③

### 2.5 「南中」社会の成立

#### ■前漢後期～後漢時代の西南

- ・前漢武帝の郡県設置以降，大規模な移民・屯田（平時は農耕・軍事訓練／有事に出兵）  
↓  
しだいに有力者（軍指揮官／地方官出身）に世襲的に属する「部曲」となる  
↓  
「南中大姓」の形成  
(半隷属農民・私兵集団)

#### ■現地民族の社会統合

- ・現地民族（非漢族）の中にも「夷帥」「叟帥」「渠帥」などと呼ばれる有力者が出現  
→「大姓」に匹敵する勢力
- ・後漢時代：郡太守（長官）は大姓を通じて漢族移民を統治，夷帥を通じて「夷人」を統治  
(大姓に夷帥をコントロールさせることも)

#### ■呉・蜀と南中（中国西南）

- ・三国時代：呉と蜀が南中（雲南・貴州西部・四川南部）における覇権を争う
  - ・呉：蜀に対する包囲作戦の一環として
  - ・蜀：呉に対する牽制（上流をおさえる）だけでなく，北伐のための後方兵站基地として

#### ■蜀の南中経営（初期）

- ・初期には平和的に支配を浸透させようとする  
鄧方・李恢らを庾降都督として派遣（最高責任者）  
南中は当時すでに大姓・夷帥の割拠状態→招撫の効果あがらず  
↑↓  
大姓・夷帥は蜀への牽制として呉と連絡  
雍闓（益州郡）・孟獲（建寧郡）・高定（高定元）（越嶲郡）・朱褒（朱提郡・牂牁太守）ら

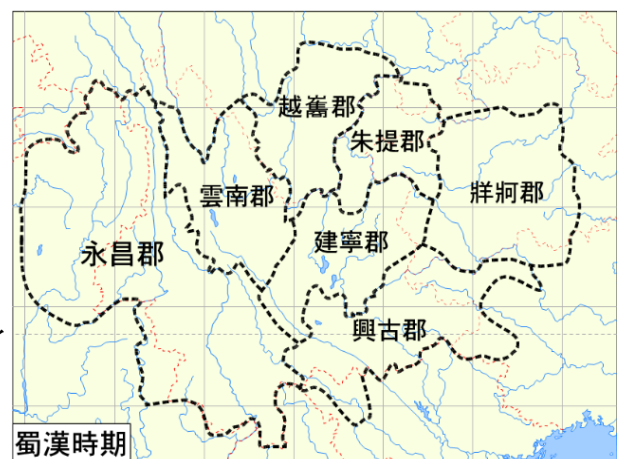
#### ■諸葛亮の南征

223 劉備死す

225（建興3年）春 諸葛亮の南征

- 成都から岷江を下り，犍道（宜賓）で全軍を三分
- 「五月瀘水を渡る」
- 雍闓が殺された後，部衆を率いた孟獲を捕える
- 「七擒七縱」

同年秋 南中四郡（越嶲・永昌・益州・牂牁）の平定完了  
雲南郡・興古郡を新設



#### ■蜀の南中経営（平定後）

- ・大姓とその軍事力を蜀漢政権に取り込む  
南中の「勁卒青羌」万余家を蜀に移し「五部」を編成，「飛軍」と呼ばれ蜀の軍事力の一つに
- ・大姓の主要人物を政権中央に取り込む  
現地民族の「羸弱」な者は大姓に部曲として配給
- ・屯田を開き，牛耕を教える →「夷漢」の混住・同化を促進

## 史料 2.7 『漢書』卷九十五 西南夷兩粵朝鮮傳

至成帝河平中(BC27)，夜郎王興與鉤町王禹、漏臥侯俞更舉兵相攻。……杜欽說大將軍王鳳曰：「太中大夫匡使和解蠻夷王侯，王侯受詔，已復相攻，輕易漢使，不憚國威，其效可見。恐議者選奕，復守和解，太守察動靜，有變乃以聞。如此，則復曠一時，王侯得收獵其衆，申固其謀，黨助衆多，各不勝忿，必相殄滅。自知罪成，狂犯守尉，遠臧溫暑毒草之地，雖有孫吳將，賁育士，若入水火，往必焦沒，知勇亡所施。屯田守之，費不可勝量。宜因其罪惡未成，未疑漢家加誅，陰敕旁郡守尉練士馬，大司農豫調穀積要害處，選任職太守往，以秋涼時入，誅其王侯尤不軌者。卽以為不毛之地，亡用之民，聖王不以勞中國，宜罷郡，放棄其民，絕其王侯勿復通。如以先帝所立累世之功不可墮壞，亦宜因其萌芽，早斷絕之，及已成形然後戰師，則萬姓被害。」

## 史料 2.8 『漢書』卷九十九中 王莽傳中

(天鳳三年，AD16) 平蠻將軍馮茂擊句町，士卒疾疫，死者什六七，賦斂民財什取五，益州虛耗而不克，徵還下獄死。更遣寧始將軍廉丹與庸部牧史熊擊句町，頗斬首，有勝。莽徵丹、熊，丹、熊願益調度，必克乃還。復大賦斂，就都大尹馮英不肯給，上言「自越嶲遂久仇牛、同亭邪豆之屬反畔以來，積且十年，郡縣距擊不已。續用馮茂，苟施一切之政。樊道以南，山險高深，茂多驅衆遠居，費以億計，吏士離毒氣死者什七。今丹、熊懼於自詭期會，調發諸郡兵穀，復訾民取其十四，空破梁州，功終不遂。宜罷兵屯田，明設購賞。」莽怒，免英官。後頗覺寤，曰：「英亦未可厚非。」復以英為長沙連率。

## 史料 2.9 『漢書』卷九十五 西南夷兩粵朝鮮傳

……莽遣平蠻將軍馮茂發巴、蜀、犍為吏士，賦斂取足於民，以擊益州。出入三年，疾疫死者什七，巴、蜀騷動。莽徵茂還，誅之。更遣寧始將軍廉丹與庸部牧史熊大發天水、隴西騎士，廣漢、巴、蜀、犍為吏民十萬人，轉輸者合二十萬人，擊之。始至，頗斬首數千，其後軍糧前後不相及，士卒飢疫，三歲餘死者數萬。

## 史料 2.10 『華陽國志』卷四 南中志

建興三年春，亮南征，自安上由水路入越嶲。別遣馬忠伐牂柯，李恢向益州，以犍為太守廣漢王士為益州太守。高定元自旄牛、定笮、卑水多為壘守。亮欲俟定元軍衆集合，并討之，軍卑水。定元部曲殺雍闓及土庶等，孟獲代闓為主。亮既斬定元，而馬忠破牂柯，李恢破[夷]於南中。夏五月，亮渡瀘，進征益州。生虜孟獲，置軍中，問曰：「我軍如何？」獲對曰：「恨不相知，公易勝耳。」亮以方務在北，而南中好叛亂，宜窮其詐，乃赦獲使還，合軍更戰。凡七虜七赦。獲等心服，夷漢亦思反善。亮復問獲，獲對曰：「明公，天威也，邊民長不為惡焉。」

秋，遂平四郡。改益州為建寧，以李恢為太守，加安漢將軍，領交州刺史，移治味縣。分建寧、越嶲置雲南郡，以呂凱為太守。又分建寧、牂柯置興古郡。以馬忠為牂柯太守。移南中勁卒青羌萬餘家於蜀，為五部，所當無前，號為飛軍。分其羸弱配大姓焦、雍、婁、爨、孟、量、毛、李為部曲，置五部都尉，號「五子」，故南人言「四姓五子」也。以夷多剛恨，不賓大姓富豪，乃勸令出金帛，聘策惡夷為家部曲，得多者奕世襲官。於是夷人貪貨物，以漸服屬於漢，成夷、漢部曲。亮收其俊傑建寧爨習、朱提孟琰及獲為官屬，習官至領軍，琰輔官將軍，獲御史中丞。出其金、銀、丹、漆、耕牛、戰馬給軍國之用。

……

## 2.6 『華陽国志』にみる南中社会

- ・十二卷 東晋・常璩撰 字道将，江原の人  
永和 11 年（355）頃成書
- ・「華陽」＝巴（重慶）・蜀（四川）・漢中（陝西南部）の地誌  
中国西南に関する最古の「地方志」

### ■目録

一 巴志	卷七 劉後主志
卷二 漢中志	卷八 大同志
卷三 蜀志	卷九 李特、雄、期、寿、勢志
卷四 南中志	卷十 先賢士女総賛
卷五 公孫述、劉二牧志	卷十一 後賢志
卷六 劉先主志	卷十二 序志並士女目錄

### ■テキスト

刘琳《华阳国志校注》（1984，修訂版 2007）

任乃強《華陽國志校補圖注》（1987）

中林史朗『華陽国志』（抄訳）（1995）1～14

船木勝馬・飯塚勝重・谷口房男ほか「華陽国志訳注稿」『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所年報』  
（1974～1998）

### ■夷人と南中大姓

- ・夷人「大種を昆といい」（＝漢代の昆明人）「小種を叟という」
- ・弁が立ち種人を屈服させられる者を「耆老」といい，これが主（＝夷帥）となる
- ・論議するとき物にたとえるのを好み，これを「夷經」という  
今では「南人」（南中の漢族移民）の教養ある人も半ばは「夷經」を引用する
- ・「夷と姓をなす」を「違耶」という / 「諸姓」を「自有耶」という  
「夷と非常に厚い者」を「百世違耶」という  
南人が軽々しく「禍変」（反乱）を起こすのは，こういう関係に頼ることができるからだ

### ■夷人の多くは漢人風の姓名をもつ

- 「越嵩叟帥高定元」「夷帥劉胄」李叡の違耶「五茶夷帥于陵承」 など
- ・「大姓」そのものが夷人／夷人を含む という説もある（高定(元)は大姓？ 夷帥？）
  - ・『華陽国志』も両者を明確に区別していない

↓

「夷人」と「南人」の両者が混在する形で当時の「南中社会」は構成されていた

### ■<sup>さん</sup>爨氏の台頭

- ・『華陽国志』南中志：建寧郡の大姓，『爨龍顔碑』（457）によれば祖先は漢人
- ・東晋～宋代に曲靖地区（雲南東部）で強大化→昆明地区も併呑
- ・名目的には南朝の刺史・太守を名乗る→実質は世襲
- ・南朝の刺史・太守を名乗る：実質は世襲→他の大姓を圧倒して南中社会に「独覇」状態

夷人大種曰「昆」，小種曰「叟」。皆曲頭木耳，環鐵裹結，無大侯王，如汶山、漢嘉夷也。夷中有桀黠能言議屈服種人者，謂之「耆老」，便為主。論議好譬喻物，謂之「夷經」。今南人言論，雖學者亦半引「夷經」。與夷為姓曰「違耶」，諸姓為「自有耶」。世亂犯法，輒依之藏匿。或曰：有為官所法，夷或為報仇。與夷至厚者謂之「百世違耶」，恩若骨肉，為其逋逃之藪。故南人輕為禍變，恃此也。其俗征巫鬼，好詛盟，投石結草，官常以盟詛要之。諸葛亮乃為夷作圖譜，先畫天地、日月、君長、城府；次畫神龍，龍生夷，及牛、馬、羊；後畫部主吏乘馬幡蓋，巡行安恤；又畫〔夷〕牽牛負酒、齎金寶詣之之象，以賜夷。夷甚重之，許致生口直。又與瑞錦、鐵券，今皆存。每刺史、校尉至，齎以呈詣，動亦如之。

.....

〔太安〕二年，于陵承詣毅，請恕叡罪。毅許之。叡至，群下以為誅、叡破亂州土，必殺之。毅不得已，許諾。及叡死，于陵承及誅、猛違耶怒，扇動謀反，奉建寧太守巴西馬恢為刺史，燒郡偽發。毅方疾作，力出軍。初以救恢，及聞其情，乃殺恢。夷愈強盛，破壞郡縣，沒吏民。會毅疾甚，軍連不利。晉民或入交州，或入永昌、牂柯，半亦為夷所困虜。夷因攻圍州城。

.....

牂柯郡，漢武帝元鼎（二）〔六〕年開。.....會公孫述（時）〔據〕三蜀，大姓龍、傅、尹、董氏與功曹謝暹保郡。聞漢世祖在河北，乃遠使使由番禺江出，奉貢漢朝。世祖嘉之，號為「義郎」。.....平夷郡.....營縣 故犍為郡城也。不狼山出營水，入沅。有野生薛，可食。大姓王氏。

.....

晉寧郡，本益州也。元鼎初屬牂柯、越嶲。漢武帝元封二年，叟反，遣將軍郭昌討之，因開為郡，治滇池上，號曰益州。漢屬縣二十四，戶（二十）〔八〕萬；晉縣七，戶萬。去洛五千六百里。司馬相如、韓說初開，得牛馬羊屬三十萬。漢乃募徙死罪及姦豪實之。.....

建寧郡，治故庾降都督屯也，南人謂之「屯下」。屬縣〔十七〕。（晉太安二年）〔後〕分為益州、平樂二郡。（合）〔後分屬〕縣十三，戶萬。去洛五千六百三十九里。有五部都尉、四姓及霍家部曲。.....同樂縣 大姓爨氏。

.....

朱提郡，本犍為南部，孝武帝元封二年置，屬縣四。建武後省為犍為屬國。至建安二十年，鄧方為都尉，先主因易名太守。屬縣五，戶八千，去洛五千三百里。先有梓潼文齊，初為屬國，穿龍池，溉稻田，為民興利，亦為立祠。大姓朱、魯、雷、興、仇、遞、高、李，亦有部曲。其民好學，濱犍為，號多（士人）〔人士〕，為寧州冠冕。

.....

永昌郡.....孝武時通博南山，度蘭滄水、渚溪，置嵩唐、不韋二縣。徙南越相呂嘉子孫宗族實之，因名不韋，以彰其先人惡。行人歌之曰：「漢德廣，開不賓。渡博南，越蘭津。渡蘭滄，為他人。」渡蘭滄水以取哀牢地，哀牢轉衰。.....呂氏世官領郡，於今三世矣。大姓陳、趙謝、楊氏。.....

